

研究・調査報告書

報告書番号	担当
20	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
<p>A cross-sectional study of alcohol consumption patterns and biologic makers of glycemic control among 459 women</p> <p>459人の女性におけるアルコール消費パターンと血糖コントロールの生体指標に関する断面研究</p>	
執筆者	
Kroenke CH, Chu NF, Rifai N, Spiegelman D, Hankinson SE, Manson JE, Rimm EB	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetes Care. 2003 Jul; 26(7):1971-8	
キーワード	
女性, アルコール消費パターン, 血糖コントロール, 生体指標, 多施設共同研究	
要旨	
<p>(目的) 血糖コントロールとアルコール消費パターンの関連に関する調査は、特に女性に関する調査はほとんどみられない。本研究では、若い女性において、平均アルコール摂取量やアルコール摂取頻度、食事時の飲酒、アルコールの種類を含むアルコール消費パターンとインスリン抵抗性の生体指標との関連を明らかにすることを目的とした。</p> <p>(方法) 本研究のデザインは断面調査である。対象は Nurses' Health Study II (米国の看護師を対象とした健康調査の第二期群)の、33-50歳までの正常体重もしくは過体重の米国人女性 459名とした。飲酒パターンについては厳格に聴取した。1995年から1999年の間に、血液検査や食事調査、生活習慣調査を実施した。主たる評価指標は空腹時インスリン、C-ペプチド、HbA1cであった。</p> <p>(結果) 年齢、喫煙、身体活動、テレビ視聴、BMI、いくつかの食事要因を調整しても、アルコール飲酒量は HbA1c と負の関連がみられた (アルコール飲酒量 0g/日の者の HbA1c 5.36%を対照とすると、飲酒量 0.1-5.0g/日の者の HbA1c -0.04%、飲酒量 5.0 -15.0g/日の者の HbA1c -0.09%、飲酒量 15.0-25.0g/日の者の HbA1c -0.10%、飲酒量 25.0g/日以上者の HbA1c -0.17%) (trend $P < 0.001$)。また、BMI 25.0以上の女性については、アルコール摂取とインスリンでも負の関連がみられた。インスリン濃度については、1回に2杯以上飲酒する機会飲酒者が最も低濃度であった。食事やアルコールの種類に関しては、これらの結果に影響を与えることは無かった。</p> <p>(結論) 1週間に数回、1-2杯飲酒する中等量のアルコール飲酒は、特に過体重の女性において、血糖コントロールに効果があるかもしれない。</p>	